

日本の既婚女性の教育年数が 就業選択確率と労働時間に与える影響

The Effect of Years of Education on Employments Rates and Working Hours of Japanese Married Women.

2021年2月2日

概要

本稿では、高学歴女性の有業率の低さの原因の1つが学歴ミスマッチであるとし、高学歴既婚女性の就業で学歴ミスマッチが生じているか分析を行った。また、学歴過剰が生じるとき、労働時間が短縮されるか検証した。2007年の就業構造基本調査を用い、多項ロジットモデルとサンプルセレクションモデルで分析している。推定結果から、大学・大学院卒の既婚女性は、子育て期間中は、高卒以下卒の既婚女性より少ない労働時間を希望しており、教育過剰であるとき、労働時間の長い常勤職につく確率が減少することがわかる。逆に、教育過剰であっても、労働時間の自由度が高い、非常勤職と役員職へつく確率が上昇することがわかった。

Key words: 女性労働問題 女性労働政策 労働市場